

文部科学省委託事業「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」
令和3年度国立夜須高原青少年自然の家

「夜須高原子ども芸術体験活動まつり」

【実施報告】

- 1 趣 旨 幼児及び小学生を含む家族を対象に、「地域の芸術家・機関・団体」と「夜須高原の里地里山」の自然・文化環境を組み合わせ、相乗効果を活かした芸術的自然体験活動の場と機会を提供する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 期 間 ①令和3年10月2日（土） ②令和3年10月3日（日）
③令和3年11月13日（土） ④令和3年11月14日（日）
- 4 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 5 参加者 ①34名 ②38名 ③29名 ④40名
- 6 活動の様子
別紙参照
- 7 感 想
 - ①プログラムに関すること
 - ・ 普段体験できない自然にたくさんふれあうことができてよかった。
 - ・ 子供たちは楽しみ、大人は勉強になった。
 - ・ 初めての物づくりで、とても楽しかった。
 - ・ 森の中で作品を作るのはとても良かった。
 - ・ 自然の家職員が手を出しすぎず、必要な時にはサポートしてくれた。
 - ②事業全体に関すること
 - ・ このようなイベントをたくさん企画してほしい。
 - ・ 来年も参加したい、事業継続をお願いします。
 - ・ 少人数でゆったりとしたプログラムでよかった、また参加したい。
 - ・ 参加人数も制限してあり、安心して参加できた。
 - ・ コロナでイベントが少ない中、イベントを開催してもらい貴重な体験ができた。
- 8 成 果
本事業を通して、参加者の声にあるように、自然物を使用した作品を作成するといった日常では体験できない活動を行うことで子供たちの創造性を育む活動ができたのではないだろうか。さらには、活動中に参加者から講師が普段活動をしている工房にも足を運びたいなどの声が聞かれ、子供たちが地域に残る伝統技能を知るという機会にもな

った。

また、コロナ禍ということもあり、事業参加者の人数制限や活動中の消毒等を徹底することで、参加者から安心して参加することができたとの声があった。参加者の安全安心な事業を提供することができたと言えるだろう。

9 課題

新型コロナウイルス感染症の影響により参加者の人数制限を行って実施した。応募の段階で参加家族から希望するプログラムの情報収集行い、人気のあるプログラムについては抽選を行った。そのため、希望プログラムから落選した家族からキャンセルが出たため、キャンセル待ち家族に連絡するなどの対応を行ったため、講師に準備いただく材料数の確定ができないなどの問題が出た。中には前日にキャンセルする家族もあり、対応に苦慮した。

また、昨年度も参加された家族は昨年度のイメージも持たれて参加しており、今年度の新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施（プログラムの人数制限や一部フリープログラムの未実施）であったため、人数制限の解除やフリープログラム再開の要望の声が多く聞かれた。

上記のことを踏まえ、募集の段階でキャンセル期限をしっかりと明記することや今年度の実施イメージを伝えるなどの工夫が必要であった。

○甘木絞り

講師：西村 正俊 氏（日ノ目スタジオ 代表）

内容：甘木の伝統文化「甘木絞り」の体験



○森のめぐみアート

講師：古賀 和博 氏（中村学園大学短期大学部 教授）

内容：森の中から拾った木の枝や毛糸等を使って、モビールを作成



○ミツロウ蠟燭づくり

講師：滝田 英徳 氏（街角カフェやまぼうし 代表）

内容：二ホンミツバチのミツロウを使ったろうそく作り体験



○光る生き物をつくろう！（アルミホイルアート）

講師：平 寛 氏（福岡教育大学 非常勤講師）

内容：アルミホイルで自由に生き物等のオブジェを作る体験



○木の虫かご作り

講師：鈴木 利和 氏（家具工房和の木 代表）

内容：木の風合いを生かした虫かご作り体験



○森のレストラン

講師：笹部 沙織 氏（こみせ 代表）

内容：筑前町産の小麦「麦太郎」と筑前町特産の「筑前姫酢」を使用したピザ作り体験



国立夜須高原青少年自然の家

令和3年度 子どもゆめ基金 20周年記念事業 筑前でしごと体験講座②

「櫨の実でつくる櫨ろうそく&櫨せっけんづくり体験」

(同時開催) 夜須高原こども芸術体験活動まつり

1. 趣 旨 古来より人々は、地域で収穫される作物や原材料を手仕事で加工してものづくりを行ってきた。そのため、地域の自然と人々の生活は目に見える形でつながり、自然と人々は長い間共に歩んでくることができていた。やがて工業化がすすみ、手仕事によるものづくりは機械生産による工業製品にとって代わられるようになった。それにより地域の自然と人々の生活は切り離され、自然と人との関係性や「一つのことを大切に作る心」も薄らいできている。

当事業では「手仕事」により地域の自然や生産をつなぎ、「地域の持続可能性」について考えるきっかけを作る。今回は、筑後地方の伝統工芸品である『櫨ろうそく』と『櫨せっけん』づくり体験を提供する。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3. 日 時 【10月】①10月 2日(土) ②10月 3日(日)
【11月】③11月13日(土) ④11月14日(日)

※ 各日 10時~12時、13時~15時に同内容で開催。

4. 内 容 櫨についてのミニレクチャー、櫨ろうそくづくり、櫨せっけんづくり

5. 講 師 松山櫨復活委員会 矢野 眞由美 氏

6. 対 象 幼児及び小学生を含む家族

7. 参加者 【10月】①10月 2日(土): 9名
②10月 3日(日): 9名
【11月】③11月13日(土): 8名
④11月14日(日): 8名

8. 感 想

①プログラムに関すること

- ・ 普段体験できない自然にたくさんふれあうことができてよかった。
- ・ 子供たちは楽しみ、大人は勉強になった。



②事業全体に関すること

- ・このようなイベントをたくさん企画してほしい。
- ・来年も参加したい、事業継続をお願いします。
- ・少人数でゆったりとしたプログラムでよかった、また参加したい。
- ・参加人数も制限してあり、安心して参加できた。
- ・コロナでイベントが少ない中、イベントを開催してもらい貴重な体験ができた。

9. 成 果

- ・子供たちが地域に残る伝統技能を知るとともに地域の自然と生産がつながることを知るきっかけとなった。
- ・筑後地方でふるさとの櫨を残す活動を行う松山櫨復活委員会と連携して事業を実施することができた。

10. 課 題

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、人数制限を行って実施したことでプログラム体験者数が限られており、参加者に活動自体を広く周知させるという面では不十分であった。

11. 活動の様子

○櫨ろうそく・櫨キャンドル作り体験

講師：矢野 真由美 氏（松山櫨復活委員会 代表）

内容：筑後地方の伝統工芸品である『櫨ろうそく』と『櫨せっけん』づくり体験

